

Glocal Tenri



4

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.17 No.4 April 2016

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
グローバルな情報発信の継続…
／深谷忠一…………… 1
- ・ 天理教教理史断章 (103)
北野文書⑤「おさしづ」の写し翻刻
／安井幹夫…………… 2
- ・ 『教祖伝』探究 (22)
赤衣
／深谷忠一…………… 3
- ・ 「おふでさき」天理言語教学試論～「こと」
的世界観への未来像～ (24)
第3章 和辻哲郎—日本語と哲学の
問題⑤
／井上昭夫…………… 4
- ・ 「おふでさき」の標石的用法 (8)
「むり」について②
／深谷耕治…………… 5
- ・ 「おさしづ」語句の探求 (14)
第1巻の「本部事情」における「道」②
／澤井治郎…………… 6
- ・ ライシテと天理教のフランス布教 (6)
ライシテの歴史③
／藤原理人…………… 7
- ・ 新宗教のブラジル伝道 (36)
救済の多様性 天理教⑥
／山田政信…………… 8
- ・ 地域福祉を拓く —新たな寄付文化の創
造— (16)
クラウドファンディング①
／渡辺一城…………… 9
- ・ 遺跡からのメッセージ (10)
イギリス滞在記⑥ アングロ・サクソ
ンの歴史を彩るサットン・フーの舟葬墓
／桑原久男…………… 10
- ・ コンゴ社会から見るアフリカ・ヨーロッ
パ関係試論 (7)
二人の救世主・魔女・聖女
／森 洋明…………… 11
- ・ ヴァチカン便り (19)
カソリックとロシア正教の会談
／山口英雄…………… 12
- ・ 2015 年度公開教学講座要旨 (5)
天理教と現代社会の生死観：老い
／幡鎌一弘…………… 13
- ・ English Summary…………… 14
- ・ おやさと研究所ニュース…………… 15
第 289 回研究報告会 (佐藤孝則)／東
アジア宗教研究フォーラム創立記念大会
に参加 (金子昭)／宗教研究会 (書評会・
永岡崇氏著『新宗教と総力戦』)／平成
28 年度公開教学講座のお知らせ／「出前
教学講座」申し込み受付／『グローバル
天理』合本のご案内

巻頭言

グローバルな情報発信の継続…

おやさと研究所長 深谷忠一 *Chuichi Fukaya*

「グローバル (glocal)」とは、“グロー
バル (地球規模的) な視野で考え、ロー
カル (地域的) な視点で行動する”こと
を意味する新造語ですが、その理念を実
際の行動に移すのは容易なことではあり
ません。

かく申しますと、“最近はマスメディア
や SNS でも外国のニュースが盛んに報じ
られるし、諸外国との人の往来も盛んにな
って、日本 (人) の国際化は急速に進
んでいる”という反論が出るかと思いま
すが、しかし、国際化イコールグローバ
ル化だとは、必ずしも言えないのです。

国際的な論議とは、日米、日中間など、
国と国との間・関係性の話。言わば、ロー
カルとローカルの問題について考え・話
すことです。それに対して、グローバル
な論議とは、たとえば、宇宙飛行士が宇
宙から地球を眺めるように、地球全体を
見据えて物事を考え・話すことです。地
図上の国境線を見ながら 2 国間の問題を
論じるのが国際的。国境線のない地球儀
を見ながら自然や人間のことを考えるの
がグローバルな論議なのです。

そういう点から申しますと、日本・日
本人の国際化は多少進んでいますが、グ
ローバル化とその先のグローバル化はま
だまだ十分ではない。グローバルに物事
を見てローカルに行動する人は多くはな
く、そういう人材を作る環境も不足して
いるように思うのです。

たとえば、日本のテレビでの天気予報
は、北海道から沖縄までの天気の変化は
報じますが、日本以外の地域・他国の天
気についてはほとんど言及しません。“明
日は日本の上空に零下 30℃の寒波がやっ
てくる”と言っても、その寒波が今日す
でに、日本より北のロシア沿海州や朝鮮

半島には達していて、現地の人が凍えてい
ることは報じない。台風でも、進路が変
わって日本列島に上陸する危惧がなくな
れば、たとえそれが台湾やフィリピンに上
陸したとしても、“明日の日本列島は好天
に恵まれて……”という天気予報になるの
です。

一般の日本人からすれば“日本のマスコ
ミが自国中心の報道をするのは当然で、外
国での出来事は日本と関係があるものだ
け報じれば十分だ”ということになるやも
知れません。しかし、“世界だすけ”を標
榜して“グローバル”に物事を考えるべき
我々としては、それでは十分だと言えない
のです。

この度の教祖 130 年祭には、世界 29 カ
国 3 地域からの 2,854 人 (海外部掌握分)
の帰参者がありました。海外の地で生涯を
かけて布教に取り組む人たちの真実の結
晶であります。

しかし、“世界一れつをたすけあげたい”
との“をや”の思いからすれば、海外布教
もまだその緒についたときさえ言えない現
状です。世界人口 70 億の 99.9%は、まだ
天理教の名前さえ知らない現実を見据え
て、グローバルに布教を進めていかねばな
りません。

そして、そのための水先案内としての
『Glocal Tenri』の使命も重要ですから、
編集に携わる人たちがさらに力を結集し
て、グローバルに情報発信を続けていた
きたいと思います。

2010 年 5 月号より 72 カ月にわたって、
この巻頭言を書いて参りましたが、私の担
当は今号をもって終わりになります。拙文
にお付き合い下さり、まことにありがた
うございました。